

■内容

- ・ 世界エネルギー会議 WEC のエネルギー資源調査(JCOAL-JAPAC)
- ・ BHP Billiton は Mt.Arthur 炭鉱の生産を拡張(豪州)
- ・ モザンビーク石炭プロジェクト(豪州)
- ・ 中国 6 月の石炭輸入量は前月の記録の約 2 倍
- ・ 東カリマンタン CBM パイロット・プロジェクトに 1,000~1,500 億ルピア(約 10~15 億円)が必要(インドネシア)
- ・ 坑内掘炭鉱ガス爆発事故(インドネシア)
- ・ 鉱物石炭地熱総局の統合サービス・ステーションを開始する(インドネシア)
- ・ PLN の公開入札(インドネシア)
- ・ BUMI Resources は Multicapital の株を少ししか持っていない(インドネシア)
- ・ ベトナム初の斜坑人車が竣工、坑内員の疲労を大きく緩和
- ・ GSP ガス化技術の中国への展開

■世界エネルギー会議 WEC のエネルギー資源調査

エネルギー資源調査(22nd Survey of Energy Resources Interim Update 2009:SER)暫定版が WEC から公表された。2005 年末の各国データを 600 ページにまとめた前回調査は 2007 年に公表されたが、今回はエネルギー資源データを 2007 年末で暫定的にとりまとめた調査結果である。

石炭埋蔵量に関しては、2005 年末に比較して 2.5%、約 210 億トン減少して、8,260 億トンとしている。主な変化は 6 ヶ国であり、調査段階の仮数字が入った南アフリカが-176 億トン少なく計上されており、その他では米国で-44 億トン減少、インドで+21 億トン増加したが、あくまで参考数値である。

主要国は、米国 2,383 億トン、ロシア 1,570 億トン(05 と同値、以下〃)、中国 1,145 億トン(05 〃)、豪州 762 億トン(-4 億 t)、ポーランド 750 億トン(05 〃)、ドイツ 671 億トン(05 〃)、カナダ 658 億トン(05 〃)、インド 586 億トン(+21 億 t)、南アフリカ 304 億トン(-176 億 t)となるが、南アフリカは炭田毎に評価作業の途中であるため仮置きとなっている。

暫定版でない 22nd SER は 2010 年の WEC モントリオール会議までに完成する。

JCOAL-JAPAC 事務局

■BHP Billiton は Mt.Arthur 炭鉱の生産を拡張

世界最大の鉱山企業である BHP Billiton は豪州の Mt.Arthur 一般炭炭鉱の生産拡張に 2.6 億 USD の投資を行うと公表した。一般炭生産は年間 1,150 万トンから 1,500 万トンへ拡張される。2011 年前半からの生産開始予定である。

スポット市場での一般炭価格は長期契約価格を上回り、これは需要回復の兆しであると Ord Minnett 社のアナリストはコメントしている。中国は国内需要を自給できず、石炭は輸入拡大しなくてはならない状態で、まさしく Mt.Arthur はここに照準を当てている。

ニューカッスル港のアジア向け石炭価格指標は 7 月には上昇している。BHP は 4-6 月期の一般炭生産は 1-3 月期に較べて 16%増加させた。

2010 年アジア向け一般炭価格は中国の強い需要に牽引され上昇する可能性があるとも予想されている。

ニューカッスル港において積み込み待ちの船舶数は減少しているにもかかわらず、積み込み量は変化している。積み込み待ち時間は前週の平均 14.2 日から 12.4 日になり、港外での積み込み待ちは 330 万トン分の 40 隻で、48 隻から減少した。

アジア向け一般炭ベンチマークは 7 月 20-24 日の週で 2.4%上昇した 78.04ドルとなり 2 月以来の高水準となった。

Bloomberg, 2009 07 24-28 他

■モザンビーク石炭プロジェクト

豪州 Riversdale 社は Mozambique の Tete 地域 Benga 炭の輸出を事業化調査 F/S の終了に続いて 20011 年第 2 四半期に開始する予定。埋蔵量は 2.733 億トンで資源量は 40 億トンと見込まれる。FS 結果は 35%のプロジェクト出資を行っている Tata Steel に送付される。

プロジェクトは 3 段階に分かれ、第一段階では原料炭 170 万トンと一般炭 30 万トンの年間輸出計画である。第二段階では、選炭モジュールの 2 号機が設置され年間生産は原料炭 330 万トン、輸出用一般炭 200 万トン規模になる。この第二段階は 2014 年以降に開始され投資額は 1.5 億 USD となる。最終段階では選炭モジュールは更に 2 基追加される。

Mining-Technology.com, 2009 07 16

■中国 6 月の石炭輸入量は前月の記録の約 2 倍

6 月における中国の石炭輸入量は 1,607 万トンを記録し、5 月の 943 万トン、4月の 916 万トンを大きく上回った。

今年の前半 6 か月での総輸入量は、中国海関総署の統計によれば、4,827 万トンで、対前年同期比で、2,672 万トンの増 (126.3%増)となった。結果、2009 年前半で、中国は 3,660 万トンの純石炭輸入国となった。(1 月～5 月では、総輸入量が 3,220 万トン、総輸出量が 1,053 万トンで 2,167 万トンの純輸入であった。)

中国の主要電力会社は、直接の石炭サプライヤを有しているが、2009 年 H1 に対前年同期比 3,059 万トン減 (8.9%減) の 3 億 1,500 万トン石炭を消費したと報じられている。(7月 20 日付 China Coal Resources Net)

中国の製鉄業は、同時期、対前年比 1.6%増の 2 億 3 千万トンの石炭を消費した。建設業界では 7.5%増の 1 億 7 千万トン、石炭化学産業では、5%増の 7 千万トンであった。

また、国家統計局は、中国の石炭生産量は 2009 年前期で前年同期比 8.7%増の 13 億 56 百万トンになったと述べた。中国は、2009 年前半で、前年同期比 1.7%減の 1兆 6,440 億 kW を発電した。そのうち、石炭火力発電は前年同期比 4.8%減の 1兆 3,390 億 kW であった。

製鉄部門では、過去 6 カ月の生産量は、世界的には日本、韓国を含む主要国が落ち込む中、継続する生産の回復を反映する形となり、2009 年前半の中国の粗鋼生産量は、前年同期比 1.2%増の 2 億 6,600 万トンとなった。

Platts International Coal Report, 2009 07 27

■東カリマンタン CBM パイロット・プロジェクトに 1,000～1,500 億ルピア(約 10～15 億円)が必要

インドネシア・エネルギー・鉱物資源省(MEMR)は、石油・ガス技術研究開発センター(Lemigas)を通して、石油及び石炭代替エネルギーに関する研究・開発を行う。その一つは東カリマンタンにおける CBM(炭層メタンガス)開発計画である。「我々は、東カリマンタンにおいて CBM 開発を 2010 年から実施する計画をもっているが、それを実現するには 1,000～1,500 億ルピアの資金が必要である」と Lemigas のハディ・プルノモ所長が語った(7 月 2 日)。

ハディ氏によると、現在 Lemigas は東カリマンタンの南クタイ盆地における CBM 資源量を調査している。予想として、クタイ盆地における CBM 資源量は 80 TCF(80 兆立方フィート)である。

クタイ盆地に存在する CBM の資源量を更に把握するために、2010 年から地質調査を開始したいとハディ氏が語った。その次の段階として、探査・ボーリング等を行い、より正確な埋蔵量を把握したい。しかし、最終的に開発に踏み出すかどうかは、資金調達の如何で決まるとハディ氏は言った。

「パイロット・プロジェクトの施設を作るには 1,000～1,500 億ルピアの資金が必要である。また、このパイロット・プロジェクトの施設は 5 本の井戸から構成される」とハディ氏が説明した。

CBM 開発は組織的に石油・天然ガス総局が担当する事になるが、鉱物・石炭・地熱総局も興味を示している。

「CBM 開発プロジェクトはインドネシアにおける坑内掘炭鉱の開発にもメリットがある」と MEMR 鉱物・石炭・地熱総局のマンガタル・マルパウン技術・環境局長は語った。

炭層中のメタンガス、CBM を取り出せば、その後に行う坑内採掘はより安全な環境で行う事ができる。今まで炭層の中に存在するメタンガスは、坑内掘りで石炭を採掘する際に問題の一つとされている。坑内で停滞したメタンガスの濃度が 4%以上(注:5～15%が爆発範囲)となれば、爆発の危険性が大きくなる。災害事例として、先月の 6 月 16 日に起きたサワレントにおける炭鉱ガス爆発がある。

一般的に CBM は地下 500～600 メートルの深さにあり、この深さでは石炭を露天掘りで採掘するのは難しい。採掘とすれば、坑内掘りでの採掘しかない。

「CBM(メタンガス)を先に取り出して利用すれば、その後の坑内掘りの石炭採掘は安全に行う事ができる」と最後にマルパウン氏が言った。

Tambang, 2009 7 2

■坑内掘炭鉱ガス爆発事故

先月 6 月 16 日にサワレント市タラウィ町で坑内掘炭鉱でのガス爆発が起きたことで、エネルギー・鉱物資源省は技術監査チームをサワレント市に派遣し、周辺の全ての坑内掘炭鉱(業者)に対して検査を実施した。検査の結果、坑内炭鉱 114 坑の内、102 坑が保安に問題があるとサワレント市鉱業・工

業・商業・協同組合事務所長のシャプリワル氏が語った。

残りの 12 坑は条件付で操業継続する事が認められる。その条件は、通気設備、支保、採掘設備、照明、電気機器、自己保護器・自己救命器・ガス検知器等の項目に対して整備すること及び改善することである。それらの条件を揃えるのは鉱業権者の義務である。条件を満たさないと採掘は認められない。また、採掘を開始するには中央鉱山監督局からの認可が必要であるとシャプリワル氏が言った。

Media Indonesia, 2009 7 2

■鉱物石炭地熱総局の統合サービス・ステーションを開始する

2009 年 7 月 3 日、エネルギー鉱物資源省(MEMR)プルノモ・ユスギアントロ大臣によって鉱物石炭地熱総局の統合的情報及び投資サービスが開始された。MEMR 省内では、このサービス・ステーションは 3 箇所目になっている。同じ形式のサービス・ステーションは既に石油・ガス総局や電力・エネルギー利用総局に設置されている。鉱物・石炭・地熱総局の統合サービス・ステーションは、ジャカルタのスポモ通りにある鉱物石炭地熱総局の 1 階に設けられた。

竣工式の挨拶でプルノモ大臣は、「この統合サービス・ステーションはエネルギー鉱物資源分野における事業を推進するものである。皆さんがご存知の通り、エネルギー鉱物資源分野が、投資、国家収入、労働者雇用、地域開発等においてインドネシアの発展に大いに貢献している。特に鉱物石炭地熱分野において、国への貢献は年々大きくなる傾向にある」と語った。

また、大臣はこの施設を鉱業関係者(鉱業権者、投資家等)に積極的に紹介し、末永く利用出来ることを期待している。展開計画として、中央政府と地方政府の協力強化によって中央・地方政府が有するデータの統合も期待される。この中央・地方のデータ統合は、新鉱業法(鉱物石炭鉱業における 2009 年第 4 法)を実施する事に当たって、重要である。

サービス・ステーションには幾つか部屋があり、展示室、サービス・カウンター室、特別サービス・カウンター室とスタジオがある。展示室にはインターネット・コーナー、プラズマ・テレビ等がある。サービス・カウンター室には鉱物石炭地熱総局の下にあるユニットがサービスを提供するための 6 つのカウンター・デスクと地質庁がサービスを提供するためのカウンター・デスクがある。このサービス・ステーションに地質庁の参加は必要と考えられる。その理由は、地質庁は鉱業事業を始めるための必要な情報・データを持っているからである。

特別サービス・カウンター室では鉱業における相談サービス等が受けられる。最後はスタジオである。この部屋には 94 型スマート・ボードや液晶プロジェクター及びビデオ・コンファレンスで整備されている。このスタジオは鉱物石炭地熱事業におけるプロモーション活動等に利用できる。

このスタジオに設置された地理情報システム(GIS)によって、インドネシアにおける鉱物石炭地熱資源の分布、地質データ(地質庁が提供)、鉱物石炭地熱分野における鉱区図、州縣市を表す地図、森林図等を見ることが出来る。また、鉱業における鉱区と森林・農場等とのオーバーラップ区域を同時に表示する事もできる。

このサービス・ステーションで、利用者は地域図(ある地域におけるデータ図)のプリント・アウトを申し込むことができる。用紙に希望するデータを記入して料金を支払えば、係員は希望された地域の座標

を入力し、データを選択すれば、後はプリント・アウトだけである。サイズはA0、A3、A4等が選択出来る。CDにコピーする事も可能である。

鉱物石炭地熱総局HP, 2009 7 3

■PLN の公開入札

インドネシア電力会社(以下 PLN)は、発電所に供給するため、年間使用量の 3.26 百万トンの低カロリー炭(Low Rank Coal)を公開入札する。PLN 一次エネルギー課の Nasri Sebayang 氏は、その石炭はクラッシュプログラム 1 万 MW の発電所とその他の発電所に供給される予定と言った。1 万 MW の発電所用石炭の入札は今回 3 回目になり、最後の入札になるかもしれない。しかし、落札が失敗になった場合、また公開入札を実施する可能性があると言った Sebayang 氏が説明した。

その低カロリー石炭は次の発電所に供給される。それは、西ジャワ州のバンテン、アチュー、西スマトラ州、バンカ・ベリトゥン、リアウ州、ランプンと南カリマンタン州にある。発電所の名前は、テルク・ナガ発電所、プラブハン・ラトゥ、ナガン・ラヤ、プシシル、ベリトゥン、ベンカリス、タラハン・バル、タンジュン・バライ・カリムン発電所である。

入札に参加する条件は、石炭会社であり、年間少なくとも20万トンの生産能力があり、インドネシアの国内要求を供給する経験(DMO)を持ち、20年間の契約期間を果たせる会社である。その他に、発電所の仕様合う低カロリー石炭の可採埋蔵量が少なくとも2千万トンを持っている会社が望ましい。求められる炭質は3,900から4,700kcal/kgである。入札に参加する会社は三つの会社から合併した会社でもかまわない。入札の手続きは7月10日から16日まで行われ、資料の受け取りは7月13日から17日までとなっている。

メディア・インドネシア日刊, 2009 7 10

■BUMI Resources は Multicapital の株を少ししか持っていない

Bumi Resources Tbk (株)の投資関係の Dileep Srivista 副社長は、7月13日(月)に鉱山関連雑誌のインタビューに Bumi Resources (株)は Multicapital 株を 5%しか保有していないと答えた。

Multicapital は三つの地方政府に指名された会社であり、Daerah Maju Bersaing 株式会社(DMB)と合併させて、2006年と2007年 Newmont Nusa Tenggara(株)の 10% の株を買収するために作られた会社である。その他に、Multicapital の株の所有者は Bakrie & Brothers (株)の子会社の Bakrie Capital Industries 株式会社である。しかし、その会社は Multicapital の株を何パーセント持っているか、Dileep 副社長は答えてくれなかった。

Newmont Nusa Tenggara(株)の 10%の株を買収するための財源については、まだ未公表である。その件について、近いうちに Bumi Resources により発表があるだろうと Dileep 副社長が説明した。資金(資金負担する機関)について、DMB と Multicapital が決める。

Multicapital は BUMI の子会社であり、三つの地方政府(Nusa Tenggara Barat 州、Sumbawa 県、Sumbawa Barat 県)が行われた 'Beauty Contest' に優勝した。そのコンテストの目的は、Newmont Nusa Tenggara の株の 10%を買収するために、DMB と合併する会社を選ぶためであった。

コンテストにはMulticapitalの他に5社が参加していた。英国Amstelco Plc Ltd の子会社であるBatavia Plcはその一つだった。先週、DMBはMulticapitalを選ぶと発表した。これから約14日間の間、DMBとMulticapitalは協力契約の形を決めるためのミーティングを行う。Newmont Nusa Tenggaraは2006年と2007年の株を3.91億ドルの価格を要求している。

Tambang, 2009 7 13

■ベトナム初の斜坑人車竣工、坑内員の疲労を大きく緩和

ベトナム鉱物石炭産業集団(VINACOMIN)Khe Cham 炭鉱では、5月下旬にポーランド製(FAMUグループ)のエンドレスロープ運搬方式の斜坑人車システムを完成した。

竣工式には、VINACOMIN 会長 DOAN VAN KIEN 氏、TRAN XUAN HOA 総裁、LE MINH CHUAN 副総裁をはじめ、VINACOMIN 傘下の各炭鉱幹部が出席した。

同システムは、運行長3,000mを簡単に運行操作が可能とのふれ込みで、最大搭乗員数は128人である。同炭鉱の計画深度は、ベトナム初の-300mレベルで、+25m レベルの坑口まで、約 1,500 秒での入昇坑が可能となり、坑内員の入昇坑時の負担を大きく軽減することとなり、ベトナム石炭業界での今後の普及が期待されている。

月刊誌「月間ビナコミン」, 2009 6 25

■GSP ガス化技術の中国への展開

GSP ガス化技術は、ガス化炉の上部に1本のドライフィードバーナーを設置し石炭を供給する下降流タイプ噴流層ガス化法である。

1982年にブラック・ウォータポンプ(Schwarze Pumpe)の発電所で1基の720t/d ガス化炉が建設され、商業化運転された。2006年5月にジーメンス社がこのGSP技術を買収した。

表1にGSPガス化の生成ガスの一例を示す。

表1 GSP ガス化生成ガス組成の一例

生成ガス組成 Vol%	H ₂	CO	CO ₂	N ₂ +Ar	CH ₄	H ₂ S	合計
GSP ガス化	23.6	68.9	3.1	4.0	0.1	0.3	100.0



図1 GSP ガス化技術を導入した中国企業及び建設中の GSP ガス化炉規模

GSP ガス化技術の中国への事業展開は 2005 年ごろからである。ジーメンス社の子会社ジーメンス燃料ガス化技術(Siemens Fuel Gasification Technology)と中国神華寧夏煤業集団がそれぞれ 50%出資して、北京傑斯菲克ガス化有限公司(GSP China Technology Co., Ltd)を設立した。

中国への GSP ガス化技術の普及、特に神華寧煤集団が計画している年産 50 万吨 MTP プロジェクトのための GSP ガス化炉の開発を協力し合っている。神華寧煤集団がこの 50 万吨 MTP プロジェクトのために約 160 万元(23 百万円)を投資し、2,000t/d の GSP ガス化炉 5 台を採用する予定である。

図1は現在 GSP ガス化技術を採用している企業と建設中の GSP ガス化炉規模である。図 2 は据え付中の神華寧煤集団の GSP ガス化炉と輸送中の蘭花集団の GSP ガス化炉の写真である。



(b) 蘭花集団 GSP ガス化炉(2009.6)

図 2 据え付中の神華寧煤集団 GSP ガス化炉 (a)及び輸送中の蘭花集団 GSP ガス化炉(b)

参考:ジーメンス(GSP)ガス化技術、他

JCOAL 技術開発部 林 石英

お知らせ

【クリーン・コール・デー記念行事関係】

例年通り、今年もクリーン・コール・デー(CCD)記念行事を行います。

内容は下記の通りですが、詳しくはJCOALホームページCCD特設頁にてご確認下さい(国際会議のプログラムは随時更新する予定です)。

- クリーン・コール・デー記念行事国際会議(9月7～8日)
- " 見学会 (9月9日)
- 「未来都市2100年石炭ランド」(科学技術館子どもイベント)(8月16～18日)・その他

また、クリーン・コール・デー広報活動の一環として、以下を予定しております。

- ・日経新聞全国版朝刊による告知広告(日程調整中)
- ・JR京浜東北線・中央線トレインチャンネルでのスポットCM(8月31日～9月6日)
- ・電気新聞、経済産業新報(従来と同じ)

<http://www.jcoal.or.jp/clean-coal-day/index.html>

【アジア太平洋石炭セミナー】(APEC Clean Fossil Energy Technical and Policy Seminar)

大韓民国インチョン市にて、10月12～14日にかけてアジア太平洋石炭セミナーを開催致します。第一次開催案内(flyer)並びに第二次開催案内(registration form 付)をJCOALホームページに掲載しておりますので、所定の方法にてお申し込みを下さいますようお願い申し上げます。

【新着石炭関連図書】

1. 石炭年鑑2009年版 (株)テックスレポート
2. 中国環境ハンドブック2009-2010年版 (株)蒼蒼社
3. 中国情報ハンドブック2009年版 (株)蒼蒼社

【石炭関連国際会議情報】

8th Annual Outage Management for Power Plants

Sheraton New Orleans, USA, 3-5 Aug 2009

Email: energy@marcusevansbb.com

5th Coaltrans Australia conference

Brisbane, Qld., Australia, 17-18 Aug 2009

Email: registrations@coaltrans.com

Internet: www.coaltrans.com

Smart Grid Implementation Summit

Hilton McLean Tysons Corner, McLean, VA, 17-19 Aug 2009

Internet: <http://www.iqpc.com/Event.aspx?id=196368>

2nd Annual Coal Bed Methane Conference

Marina Mandarin, Singapore, 18-21 Aug 2009

Internet: <http://www.infoshop-japan.com/conference/coal-bed-methane09/regist.shtml>

Coal-Gen 2009 conference

Charlotte, NC, USA, 19-21 Aug 2009

Email: jenniferl@pennwell.com

Internet: www.coal-gen.com

Coal-Gen Europe 2009 conference and exhibition

Charlotte, NC, USA, 19-21 Aug 2009

Email: jenniferl@pennwell.com

Internet: www.coal-gen.com

1st IEA GHG international oxyfuel combustion conference

Cottbus, Germany, 8-11 Sep 2009

Email: stanley@ieaghg.org

Internet: www.co2captureandstorage.info/OCC1/OCC1.htm

Conference on coal trading and risk management

Singapore, Singapore, 7-9 Sep 2009

Email: registrations@coaltrans.com

Internet: www.coaltrans.com/EventDetails/0/1025/Coal-Trading-and-Risk-Management-Singapore.html

8th Coaltrans South Africa

Johannesburg, South Africa, 7-9 Sep 2009

Email: registrations@coaltrans.com

Internet: <http://www.coaltrans.com>

Coal authority annual conference

Manchester, UK, 9 Sep 2009

Email: johndelaney@coal.gov.uk

1st IEA GHG international oxyfuel combustion conference

Cottbus, Germany, 8-11 Sep 2009

Email: stanley@ieaghg.org

Internet: www.co2captureandstorage.info/OCC1/OCC1.htm

Smart Grids Summit 2009

Beurs-WTC Congress Center, Rotterdam, Netherlands, 14-15 Sep 2009

Internet: <http://www.thesmartgridsummit.com/>

Coal tech 2009

Brisbane, Qld., Australia, 15-16 Sep 2009

Email: richard.beattie@iir.com.au

Internet: <http://www.iir.com.au>

International Committee for Coal and Organic Petrology (ICCP) and the Society for Organic Petrology (TSOP) Joint annual meeting

Porto Alegre, RS, Brazil, 19-26 Sep 2009

Email: wolfgang.kalkreuth@ufrgs.br

Internet: www.ufrgs.br/ICCP_TSOP_2009

2009 international Pittsburgh Coal Conference

Pittsburgh, PA, USA, 21-24 Sep 2009

Email: ipcc@pitt.edu

Internet: <http://www.engr.pitt.edu/pcc/index.htm>

ACAA (Advancing the Management & Use of Coal Combustion Products) members' fall meeting 2009

Denver, CO, USA, 22-23 Sep 2009

Email: info@acaa-usa.org

Internet: <http://www.acaa-usa.org>

Mining & Energy New South Wales

Muswellbrook Showground, Muswellbrook, NSW, 22-24 Sep 2009

Email: peter.thompson@reedexhibitions.com.au

Internet: <http://www.miningandenergynsw.com.au/>

Russian coal markets conference 2009

St. Petersburg, Russia, 23-24 Sep 2009

Email: claire.lewis@mccloskeycoal.com

Internet: <http://www.mccloskeycoal.com/conferences>

VGB power plants 2009 congress with technical exhibition

Lyon, France, 23-25 Sep 2009

Email: marthe.molz@vgb.org

Internet: www.vgb.org/en/hv_2009_e.html

Conference on coal to liquids (CTL): strategic, environmental, technological and economic challenges

Singapore, Singapore, 28-29 Sep 2009

Email: register@ibcasia.com.sg

Internet: <http://www.ibt-asia.com/ctl>

South African carbon capture and storage conference

Johannesburg, South Africa, 29-30 Sep 2009

Email: ccsconference@africanearthevents.co.za

Internet: <http://www.ccsconference.co.za>

IEA Greenhouse Gas R&D's 12th international post combustion network meeting

Regina, SK, Canada, 29 Sep -1 Oct 2009

Email: john.topper@iea-coal.org

Internet: www.co2captureandstorage.info/networks/Capturemtg12.htm

Conference on European emissions trading

Brussels, Belgium, 28-29 Sep 2009

Email: stacey_knox@platts.com

Internet: <http://www.platts.com/Events/2009/pc985/?elq=05FCF5BAE09544BFA7C5C06ED47C392F>

2009 U.S. coal mine methane conference

Boulder, CO, USA 30 Sep-1 Oct 2009

Email: somers.jayne@epa.gov

Internet: http://www.epa.gov/cmop/conf/cmm_conference_sept09.htm

Trouble-free continuous operation in coal-fired power plants

Cologne, Germany, 1-2 Oct 2009

Email: b.doleschel@hdt-essen.de

Internet: www.kalenborn.de/presse-pdf/2009/PI_Seminar_Koeln_2009_gb.pdf

Brussels carbon capture and storage summit 2009 – getting it right for Copenhagen

Brussels, Belgium, 6 Oct 2009

Email: james.wilmott@forum-europe.com

Internet: www.ccsconference.eu

Indian Coal Markets Conference 2009

Oberoi Hotel, New Delhi, India, 6-8 Oct 2009

Email: letoya.anderson@mccloskeycoal.com

Internet: <http://www.mccloskeycoal.com/conferences>

Brussels carbon capture and storage summit 2009 • getting it right for Copenhagen

Brussels, Belgium, 6 Oct 2009

Email: james.wilmott@forum-europe.com

Internet: <http://www.ccsconference.eu>

Power-Gen Asia

IMPACT Exhibition & Convention Centre, Bangkok, Thailand, 7-9 Oct 2009

E-mail: attendingpga@pennwell.com

Website: www.powergenasia.com

Conference on 3rd coal mining operations and economics

Jakarta, Indonesia, 12-13 Oct 2009

Email: registrations@coaltrans.com

Internet: <http://www.coaltrans.com>

2009 coal market strategies conference

Las Vegas, NV, USA, 12-14 Oct 2009

Internet: <http://www.clean-coal.info>

Methane to Markets Partnership Coal Subcommittee Meeting and Meeting of UN Economic Commission for Europe Ad Hoc Group of Experts on Coal Mine Methane

Geneva, Switzerland, 12-13 Oct 2009

Internet: <http://www.methanetomarkets.org/events/2009/coal/coal-12oct09.htm>

2009 coal market strategies conference

Las Vegas, NV, USA, 12-14 Oct 2009

Internet: www.clean-coal.info

2009 International Beijing coal ash conference and exhibit

Beijing, China, 15-16 Oct 2009

Email: wanglan@cbmamail.com.cn

Internet: www.coalash.org

Coaltrans London 2009 conference

London, UK, 25-27 Oct 2009
Email: registrations@coaltrans.com
Internet: <http://www.coaltrans.com>

15th international conference on coal science & technology (ICCS&T)

Cape Town, South Africa, 26-29 Oct 2009
Email: angelique.freyer@sasol.com
Internet: <http://www.iccst.info>

US EPA's Coal Mine Methane Conference 2009

Boulder, Colorado, USA, 30 Sep-1 Oct 2009
Internet: http://www.epa.gov/cmop/conf/cmm_conference_sept09.htm

VGB conference on chemistry in power plants 2009 with technical exhibition

Dresden, Germany, 28-29 Oct 2009
Email: ines.moors@vgb.org
Internet: http://www.vgb.org/en/cik_09_e.html

3rd international symposium on CO2 capture and geological storage

Paris, France, 5-6 Nov 2009
Email: patricia.fulgoni@ifp.fr
Internet: http://www.co2net.com/events/downloads/CO2symposium-2009_Flyer.pdf

3rd international symposium on CO2 capture and geological storage

Paris, France, 5-6 Nov 2009
Email: patricia.fulgoni@ifp.fr
Internet: www.co2symposium.com

US coal imports and exports 2009

St. Petersburg, FL, USA, 9-10 Nov 2009
Email: claire.lewis@mccloskeycoal.com
Internet: <http://www.mccloskeycoal.com/conferences>

9th international mine ventilation congress

New Delhi, India, 10-13 Nov 2009
Email: info@9thimvc.org
Internet: www.9thimvc.org

4th workshop of UNECE Ad Hoc Group of Experts on Cleaner Electricity Production from Coal and Other Fossil Fuels

Geneva, Switzerland, 16-17 Nov 2009
Email: info.ece@unece.org

Colloquium on the role of coal in a carbon-constrained economy. Part 1

Johannesburg, South Africa, 17 Nov 2009
Email: robbie@rca.co.za
Internet: <http://www.fossilfuel.co.za/Role%20of%20Coal%20Announcement.pdf>

Conference on coal mine methane

London, UK, 23-24 Nov 2009
Email: aworsfold@smi-online.co.uk
Internet: www.smiproduction@smi-online.co.uk

7th Asian coal conference 2009

Bali, Indonesia, 1-3 Dec 2009
Email: letoya.anderson@mccloskeycoal.com
Internet: www.mccloskeycoal.com/conferences

2009 coal trading conference

New York, NY, USA, 7-8 Dec 2009
Internet: <http://www.clean-coal.info/drupal/eventlist>

VGB conference on maintenance in power plants 2010 with technical exhibition

Bremen, Germany, 24-25 Feb 2010

Email: heinrich.grimmelt@vgb.org

Internet: www.vgb.org/en/inst_2010_e.html

Colloquium on the role of coal in a carbon-constrained economy. Part 2

Johannesburg, South Africa, 17 Feb 2010

Email: robbie@rca.co.za

Internet: <http://www.fossilfuel.co.za/Role%20of%20Coal%20Announcement.pdf>

※ 編集者から※

メールマガジン第 36 号の発行について

JCOAL マガジン 36 号をお届けします。

まだ梅雨明けしない地域もあり、不安定な天気が続きます。戻り梅雨の湿気と強い日差しでクールビズでも、体調を崩しそうです。熱中症にも注意すべき時期でもあり、水分補給を忘れずに健康第一でご自愛下さい。

JCOAL では新規の分野や事業展開とともに、JCOAL への期待と責務を感じて、何をなすべきか自問自答しながら、石炭に関連した最新の情報や JCOAL 活動についての速報をお伝えしています。

発信情報をより充実させるためにも、多くの方からのご意見、ご希望、及び情報提供をお待ちしております。興味ある分野や地域について、ご連絡をお待ちしております。

(編集子)

★ このメールマガジンの内容は JCOAL の組織としての見解を示すものではありません。

★ お問い合わせ、並びに情報提供・プレスリリースは jcoal-qa@jcoal.or.jp にお願ひします。

登録名、宛先変更や配信停止の場合も、jcoal-qa@jcoal.or.jp 宛てにご連絡いただきますようお願いいたします。

★ JCOAL メールマガジンのバックナンバーは、JCOAL ホームページにてご覧頂けます。

<http://www.jcoal.or.jp/publication/jcoalmagazine/jcoalmagazine.html>

☆ お知らせ

- 勝手ながら、次回の 8 月上旬は夏休みとして休刊させていただき、JCOAL マガジン 37 号は 8 月下旬にお送りする予定です。